平成２８年８月　第３回これからの防災と財政を考える調査特別委員会

平成２８年　８月１９日（金）

○議事日程

（１）今後の進め方について

（２）その他

○出席委員

委員長	９番	川　上　絹　子　君	副委員長	８番	村　上　忠　弘　君
	１番	岸　　徹　也　君		２番	小　川　ひとみ　君
	３番	加　藤　三　明　君		４番	向　井　孝　一　君
	５番	芳　賀　芳　夫　君		６番	徳　田　栄　邦　君
	７番	日　置　紳　一　君		１０番	山　崎　　仁　　君
	１１番	上　村　義　雄　君		(議　長	村　瀬　　廣　　君)

○欠席委員（０名）

○出席事務局職員

議会事務局長	成　田　光　康　君
議会事務局係長	佐　藤　直　樹　君

開議　１４時３０分

◎委員長あいさつ

○委員長（川上絹子君）　それでは皆さんこんにちは。

きょうは、第３回特別委員会ということで、皆様の考えていることをざっくばらんに出していただくことにしまして、理事者の出席を求めていません。それで、これから今後の進め方を議題にしたいと思いますので、皆さんの忌憚のない意見を出していただきたいと思います。それでは始めます。

◎開会の宣告

○委員長（川上絹子君）　ただいまの出席委員は１１名で定足数に達しておりますので、第３回これからの防災と財政を考える調査特別委員会を開催いたします。

これより議事に入ります。

始めに議件１、今後の進め方についてを議題といたします。

今後どのように進めていったら良いでしょうか。何か考えのある方意見を。

小川君。

○２番（小川ひとみ君）　前回は欠席いたしまして、誠に申し訳ございませんでした。

前回は町の防災計画ということで、話し合われたということがあったんですが、これからは災害時の議会の役割ということを私は考えて、皆さんと考えてみたいなと思っております。この度の熊本地震で最初に思ったのが、議員として、議員の立場で何をしなければならないのかなということを凄く考えました。そのためにも有事の際は、執行部側は災害対策本部を立ち上げると思いますが、他の市町村でもいま考えられていることが、災害対策支援本部というのを議会が立ち上げて、そういう組織というものをきちんと持っているということを聞いておりますので、こういう特別委員会なので、是非、そういう部分のことも視野に入れて、話し合いを持ってみたいと思っております。よろしくお願いします。

○委員長（川上絹子君）　只今、小川君の方から今後の進め方の中に、災害時の議会の役割を考えたいという意見が出ました。皆さん、この意見も踏まえて、また他の意見が何かありましたら述べてください。

日置君。

○７番（日置紳一君）　理事者が来て開いている特別委員会の時に、今後、改築を予定されている建物についても、改築になる時でなければ耐震調査をしないというような話をしておりましたけれども、この防災と財政を考える特別委員会の中で、やはり改修予定があるのであれば、やはりこの中で耐震調査をして、もう一度財政、もちろんここに財政有りますし、それが緊急を要するのであれば財政の方はどうなっているのかとか、本当に優先順位がどうなのかということをここでやるべきだと思いますので、やはり特別委員会の中で、今後、建て替えを予定している建物も早急

に耐震調査をするように理事者に働きかける様なことを、そういう方向にもって行くべきだというふうに私は考えます。

○委員長（川上絹子君）　只今、日置君の方から今後、耐震に係りそうな建物を全部耐震調査して、そして建物の優先順位を付けて、あと財政の方を考えてみる方法もあるんじゃないかという意見が出ました。あと他に。

岸君。

○１番（岸　徹也君）　まず、防災と財政を考える調査特別委員会ということですので、防災という部分で、水防関係の防災計画というのは色々と細かに記載はされているんですけれども、地震に関しての部分については、大変弱いのかなという部分が私は気にはなっているんですね。これと同時に公共の建物の今後の対策というんでしょうか、防災面からする対策というものと、また財政から言えば不燃耐震化このあたりというのはやはり、予算を要するものですから、こういった基金の状況なんかも踏まえた、こういったスケジュールもしくは資料というものをやはり理事者側からは提出していただきたいなと、そういうものをしっかりと見て精査をしていければなというふうにまずは考えております。もう少し具体的な話で、これはいま防災、財政、全く関係ないことではないんですけれども、前回の確か委員会でもお話が出ていたんですけれども、例えば、防災についての専門家というんでしょうか、道内にもそういう専門家がいらっしゃると思うので、そういう方に来ていただき勉強会でしょうか、そういうものを開いていただくということも、これは大変有効なのではないのかなっていうふうに考えますし、また、いままさに熊本の地震というもので災害復興、復旧に向けて大変な思いをしていると思うんですけども、今金町と山鹿市、何か過去に連携もしていたということも聞いておりますので、やはりそういった実際に現場で確認をすると。見るということも、私は重要なことじゃないのかなというふうに考えます。以上です。

○委員長（川上絹子君）　あと他に何か意見が有りますか。

上村君。

○１１番（上村義雄君）　今後の進め方についてですけれども、防災の部分と、それから財政の部分と、この特別委員会で両方をにらみ合わせながら検討していくことが大事だということから、この特別委員会になっているわけですので、私は財政の方の部分で、これは町の執行の方では第５次の後期の部分の財政的な部分の５年間の部分は出ているけれども、そののちについての部分は何も言及していないですね。それから、建物を建てるということについても、こういうものが必要だということは出ているけれども、それは建物を建てる時点で耐震化の調査をするんだというままでのその中での答弁でした。ですから私はこの特別委員会、議会がそういう部分をこの特別委員会でもって行政の方に誘導していくくらいの、そういう部分になって良いのかなというふうに思うわけです。というのは、財政の部分でこれは私たちももっと勉強しなければならないけれども、やはり専門のプロの人を呼んで、その町の財政や今後の建物、箱物建てるのに対してどういう状況になっていくのかと

いうことの勉強の為に、やっぱり専門のプロの人からのそういうその講師を招いて勉強するということが、福島町でもってそれを講師を招いて勉強したという新聞に出ていた部分は、同僚議員が芳賀さんがいうのを出してくれました。同じ講師でなくても良いですけれども、そういう講師を地元に招いて議会も町職員も同じにそういう勉強するという機会を設けるような方向性でやっていただければなっていうふうに思うわけです。それと、財政シミュレーションということが５年間、後期５年間の分は出ているけれども、全体を通して今、後の箱物を必要な部分それらをどの位予算的にかかるのか。各町がそれぞれそういう財政的な部分で、箱を直す時には、八雲とか長万部とかそれぞれ出しておりますけども、今金は今後、早急に作っていかなければならない箱物に対して、どれだけ財政的出動が出てくるのか。そして、町の全体の財政の中からどういう位置になるのかということも、これは地震の部分の、耐震の建物建てる時でないと耐震化をやらないんじゃなくて、今後、これから建物を必要だというものに対して、耐震化も含めてそういう検討をされた方が良いのかなというふうに思うので、特別委員会の中で、今後の進める中で、そういうことも含めて、議会がリードする位の在り方があって良いのかなというふうに思います。

○委員長（川上絹子君）　向井君。

○４番（向井孝一君）　今回の特別委員会は、どの方向に向かおうとしているのか、ちょっと理解に苦しむところもあるんですけれども。総合体育館それから図書館建設にあたっての財政の状況だとか、あるいは順番と言われている、いま中学校の耐震の点数も出まして、いま耐力度テストをやって、その数字の積み重ねをしながら国へどの位の補助になるのかっていう計算をいましている最中ですよね。それは我々の所管の中で、中学校それから総合体育館も実態調査をしたあとの取りまとめの中で進めを受けてきたわけでありますけれども、そして先程来、１０年先までの財政どうのこうのというんだけども、総務省が財政健全化法を作って地方自治体が５年という法律の中でやっていますよね。それをあえて１０年まで伸ばして理事者側がそれに応えるというのは可能かどうかといったら私はちょっと不可能に近いものがあるのかなという気がするんで、例えば、先程出ていた勉強会をやるっていう程度で押さえて行くのであれば、私は分かりますけれども、やはり議会としてそこまで求める必要があるかどうかといったら、私は疑問だというふうに思います。

○委員長（川上絹子君）　様々な意見が出ておりますけども。只今、向井君からは勉強会する程度に留めておくくらいなら良いっていう話が出ていますけれども。特別委員会を折角作ったんですから、もうちょっとやっぱり踏み込んだところまでは行ってみたいなと思うんですけれども。いま、所管が産業教育の中でいま実態調査をしているということで、その結果が出たら一応連絡をもらって教えていただきたいと思うんですけれども。

○４番（向井孝一君）　それは全体に公表するはずです。

○委員長（川上絹子君）　近々出るんですか。

○４番（向井孝一君）　１２月定例位かな。
○委員長（川上絹子君）　１２月定例位。体育館、中学校の問題も控えているので、中学校がもし耐震の関係で壁が落ちているとかっていう話もちらちら聞いているので、そちらの方も生徒が学校に行っていることを考えたら、やっぱりしておけない大変な問題だと思いますので、いま早急に中学校の部分が急がなければならないのかなと思うんですけれども。皆さんの中で他に何か思っていること、考えていることありますか。たくさん課題は小川君、日置君、岸君、上村君などからたくさんの問題も出されていますけども、あとで１つずつみんなで考えていきたいと思いますけども。他にありませんか。
　芳賀君。
○５番（芳賀芳夫君）　基本的にはこういう箱物、行政についてはやはり財政というのが同僚議員は心配される部分かなと。特に我々は町民の代表であり町民の意見というのをこの議会に反映する立場であります。私は個人的に色々話をする中ではですね、やはり必要なものは良いだろうと、やはり我慢をするものはしてですね、これから特に福祉の関係ですか、我々７０代といえどもですね、これから１０年後にはやはりそういう施設に入る場合もあると。そうした場合にいまは満床ということもありますけれども、そういったこともやはり視野に入れて、検討してほしいなということからして、これからのこういう箱物については目白押しにあるわけですよね。庁舎の問題あるいは消防署、給食センターですか。それと、中学校の問題あるいは３０年、４０年経過している水道関係あるいは消火栓と、そういった問題も目白押しにあるわけですから、やはりしっかりした財政をにらみながらですね、町民に不安を与えないようなそういう施策を打ち出して議論していければなというふうに思っています。皆さんいくとこはやはり健全化ということ、非常に念頭に置いたことでですね、こういう特別委員会を作っているわけですから、色々な勉強会もしながらですね、熟慮していったほうが私は良いなと思っております。
○委員長（川上絹子君）　たくさんの意見が出ていますけども、他に何か意見有りませんか。熊本のあと、何度か地震がきていますけれども。
　山崎君。
○１０番（山崎　仁君）　この特別委員会を設置するまでの経緯も含めて、もう一回考えてみたいんですけれども、今金町で久々に大型建物をやると。２０億位以上の、当時２４億ですか、更に体育館解体をすれば２億とか３億とか大きな数字が出てたと。特別委員会を設置しながらその内容を調査し、予算も議決をしたと。３月定例会で中学校の耐震でちょっと基準を下回ったと。町長は、あれは議会の終わったあとの挨拶かどっかで全面建て替えをするということも表明された。これから財政どうなるのかなって思った時に、４月１４日の地震ですよ。この地震というのは今金の防災計画を見たらどうなんだって、前回も防災計画の中を説明いただきましたけれども、地震に対しての対応が私は全くなっていないと思う。熊本で地震があった、実は耐震基準、耐震基準の中で私たちの瀬棚郡と熊本と基準の９割で建設しても良

いという地域係数が存在をしていたと。地震がそんなに起きないだろうと思っていたところであったと。じゃあ、今金町も地震がある可能性は大いにあるんだなということでは、４月の１４日以降、色んな学者、先生たちの話を聞くと、北海道でもどこで起きるか分からないと。私は地震の怖さというのはやっぱり話を聞いてみなければ、それから体験をしてみる、現場を見ることも大変大事なことだっていうふうに思うんですよ。先程、どなたから議員が災害時に何ができるか考えようといいましたけれども、今金町、５，０００余りの人口の中で災害対策本部を作り、それぞれが責任を果たすという体制の中で、私は色々そういうものを作るべきではないという考え方なんです。やっぱり本部は一つで一元化するべきだという気がするんですよね。ですから防災に関して言うと、地震ということをもっと我々は勉強するべきだと。それが、先程どなたかがおっしゃっていました、講師を招いて聞くのも一つ、それから現場、災害のあったところに、これは個人で観光に行くわけではなくて、議会という立場、特別委員会という立場で視察をするというようなことは、私は可能だし、それなり皆さん見識を持って行かれるわけですから、まずそういうものが一つ大事かなという気がします。それから、財政を考えた時には、近隣町でも公共施設の将来ということでは、色んな数字が出ているようであります。長万部町では総額で３００億、八雲では３９０億、これから公共施設を維持していくためには大変お金が必要だと。であれば今金町もいま百数十か所、町の施設があるんであれば、今後どうあるべきか、基金は５６億、５０億以上持っているわけですけれども、将来その施設をどうするか。それから、先程防災の中でも言いました、防災計画の中にもある町内木造住宅密集地の不燃と耐震化を進めるという防災計画の中の目標が達成されていない。全く動いていない。これらを財政的にもし支援できるのであれば、そういうことも考えたら良いのかなっていう。ちょっと取り留めのない話かもしれませんけれども、２つのものはやっぱりせっかく作った特別委員会です。十分な調査をされるように方向を決めていただきたいと思います。

○委員長（川上絹子君）　大体意見が出てきましたけども、あと他に何か別の考えもありますっていう方おりませんか。村上君どうですか。

村上君。

○８番（村上忠弘君）　前回、町からの説明では、１２月末までには管理計画を作ると。それは、町の公共の施設、１６６か所の部分を全部みてやるということなんですけども、それによってこれから急を要するような場所については、いま考えている建て替えだとかそういった優先順位だとかっていうのも、そこで見直す必要があるのかなと思うわけです。この特別委員会というのは、それらも見ながらいま建て替えの優先順位ではなくて、耐震化に係る部分での優先化をつけることも、特別委員会の役割じゃないかなと思っております。ですから、財政的な部分が出て来てから深まった話になるんじゃないかなと私は思っております。

○委員長（川上絹子君）　加藤君、何かありませんか。先程からの意見をまとめますと、耐震の優先順位を考えた方が良いのではないかという意見と、また箱物を建てる、

建てないということと別に、耐震を考えた優先順位が必要ではないかという。どちらにしても耐震を考えて、町の施設の優先順位を考えるという意見が多かったんですけれども、いま産業教育の所管の方で実態調査で体育館とか中学校を調べていると言ったんですけど、ちょと急いでもらって議会の方にそういうことも含めて、優先順位を出してもらうような方向でやっていったら良いでしょうか。暫時休憩いたします。

休憩１５時００分
開議１５時１７分

○委員長（川上絹子君）　休憩を打ち切り、開議いたします。
　それでは先程、数名の委員から専門家を呼んで耐震に対する勉強、災害に対する勉強をしてみる方法があるのではないかという意見が出ました。その部分は早急にできそうな気がしますので。財政の方も含めて検討していく方向で。どちらにしても委員の人みんなで決めなければいけないことで、みんなの発言によって方向を決めていきますので、そういう方向で行きたいと思いますけど。
　上村君。
○１１番（上村義雄君）　色んなこれからの構想の中で、早急に先ず取り組んでいく部分としては、地震の勉強とそれから財政の部分で、プロの地方自治の財政を扱っているプロの人からの財政の部分と、その両方をまず勉強するということを提案し、進め方については事務局、委員長、副委員長で、どの講師を呼ぶかっていうことについても、それは委員長、副委員長、事務局にお任せし、まずそこを勉強するということを提案したいと思います。
○委員長（川上絹子君）　いま、たくさんの意見を出されましたけれども、それは後々みんなで検討していく形にしまして、いま地震、財政のプロの講師を依頼して、勉強会するとなれば予算が伴うことなので、９月定例に。
○議会事務局長（成田光康君）　もう、予算要求締め切り終わっています。
○委員長（川上絹子君）　相手があることで、講師の都合もあるのですぐにはできないかもしれないけども、そちらの方の努力をします。予算の方の９月定例分は、締め切りに一応なっているそうなので、そのあとちょっと議会の方と調整してみてから決めることにします。あと他に出た意見は、小川君、日置君、岸君、上村君、芳賀君、みなさんの意見は後々会議また、第３回、第４回の会議を進めて行く中で、もっと詳しく話し合っていきたいと思います。あとほかに意見有りませんか。先程の財政のプロの講師だとか、防災の講師の先生に依頼できたら、そちらの方で一応一度勉強会をするということで、きょうはそれでよろしいですか。あと他に何かありませんか。
　それでは次に議件２、その他についてを議題といたします。
　委員の皆様から何かございませんか。

◎閉会の宣告

○委員長（川上絹子君）　それではで本日の特別委員会はこれをもちまして閉会といたします。ご協力ありがとうございました。

閉会　１５時２３分

署名委員

平成２８年　８月１９日

委　員　長